花と緑
学問の府

沖縄県立総合教育センター

所報

第 88 号 2023 年 9 月発行
発行者　沖縄県立総合教育センター
所　長　　上　原　源　三
〒904-2174 沖縄県沖縄市与儀 3 丁目 11 番 1 号

調 査 研 究 事 業

～ 調査研究統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」～

本総合教育センターでは、「本県の学校教育の諸課題について調査研究を行い、それらの課題解決に向けた学校力、教師力の向上を図り、幼児児童生徒の『生きる力』の育成に資することを目的」として調査研究を行い、毎年２月初旬に研究発表会を開催しております。この調査研究は、６班から選出されたメンバー13 人でチームを編成して取り組む「プロジェクト研究」と、個人や共同で課題を設定して取り組む「個人・共同研究」があります。

今年度の「プロジェクト研究」では、昨年度の成果と課題を踏まえながら、下記の研究方針の下、「沖縄県キャリア教育の基本方針」に基づいて、キャリア教育の視点を通して授業改善に取り組んでおり、教育庁関係各課と連携しながら研究を進めているところです。

【令和５年度プロジェクト研究　研究方針】

１．研究理論は令和４年度プロジェクト研究をベースとしつつ、再検討しながら加筆修正等を行う。
２．高等学校に研究協力校・研究協力員を設定して実践していく。（沖縄県立北中城高等学校）
３．高等学校第１・２学年を研究検証授業対象とする。
４．教職員向け・生徒向けのキャリア教育に関する学習用動画を活用した研修・授業を設定する。
５．「未来シート」をアンケートスタイルにして取り入れる。
６．各教科等、一単元における「主体的に学習に取り組む態度」を見取るまでの授業を実践・例示する。
７．キャリア教育の視点とパフォーマンス課題の相関性に着目する。
８．研究したことを「成果物」として各学校等に発信する。

また、教科研修班の「個人・共同研究」については、以下のとおりとなっています。

令和６年２月２日（金）に開催する「調査研究事業研究発表会」への参加をお待ちしております。

種　別	研　究　テ　ー　マ
プロジェクト研究	学びに向かう力を育成する教育の充実 － 未来につなぐキャリア教育の視点を通して（高等学校）　－
個　人　研　究	資質・能力の明確化を目指した学習評価 － 中学校数学科におけるテスト改善を通して － 「現代的な課題」における自己の生き方を考え深める指導の工夫 － SDGs を関連づけたパッケージ型ユニット道徳を通して －
共　同　研　究	成果が見られる学校の取組 － 「全国学力・学習状況調査」の調査・分析を通して －

教 育 講 演 会

調査研究事業の一環として、本県の今日的な教育課題解決へ向けて、今年度は２回の教育講演会を実施します。第１回教育講演会は、去る５月 30 日（火）に横浜創英中学・高等学校長の工藤勇一 氏をお招きして、「児童生徒のこれからの時代に必要となる資質・能力を育成する研究『社会の変化とこれからの学校教育 ～Agency を中心に据えて～』」を演題とするオンライン講演会を開催しました。ライブとオンデマンドを合わせて、900 名近くが視聴し、大盛況のもと、終えることができました。

第２回の教育講演会は、学校法人桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授・学校法人河合塾教育研究開発本部研究顧問である溝上慎一 氏をお招きし、御講演していただく予定です。児童・生徒理解や授業改善の方向性について、多くの示唆がいただける貴重な機会になると考えております。

教育講演会（オンライン）へのお申込み方法は、今後、各学校に届くチラシ、または、本総合教育センターWeb ページを御参照ください。多くの参加をお待ちしております。

適応指導教室通級児童生徒等スポーツ交流会

令和５年７月５日(水)、沖縄県総合運動公園レクドームにおいて、10団体（適応指導教室）、29名の児童生徒が参加し、「令和５年度第１回適応指導教室通級児童生徒等スポーツ交流会」が行われました。

全体集合写真の様子

本事業は、県内の適応指導教室に通級する児童生徒が「親睦を深める」「共感的な人間関係の育成」「自己の可能性の開発を援助する」等を目的として毎年７月、11月の２回開催しています。全体交流では、全児童生徒・指導員の皆さんで音楽に合わせストレッチ体操を行いました。徐々に周りの環境にもなれ、緊張もほぐれ、笑顔で行っている姿が印象的でした。

スポーツ交流では年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるボッチャという競技を行いました。児童生徒は、楽しく元気に汗を流していました。

実施後のアンケートでは、そのほとんどが「とてもたのしかった」「楽しかった」と答えており、また、感想からも「楽しい時間を過ごせました」「最初は行きたくなかったけど、思ったより楽しかった」等の声や、引率の先生方からは、「子どもたちの普段見られない一面（笑顔や他人と会話するなど）を見かけることができた」や「生徒の表情が晴れやかになった」「県内の適応指導教室の児童生徒がスポーツを通し、交流する機会があるということはとても素晴らしい」等の高評価を頂きました。

この交流会が児童生徒の達成感や自己有用感の向上、何事にもチャレンジする意欲につながればと思います。

「教師も体験する対話的活動」（主事も体験しました！）

みなさんもご承知のように、学校教育において、これまで行われてきた知識・技能の着実な定着とともに、思考力・判断力・表現力といった資質能力の育成も重視されるようになりました。教育経営研修班では、これらの資質・能力の中心は思考力であると整理し、その育成に有効な手立てのひとつとして、対話的活動をとりあげ、「対話的活動による思考の深まり」についての共同研究を令和４年度に行いました。研究対象は「教師」です。中教審の委員から「生徒の学びを、教師自身が体験していなければ教えることは非常に難しい」という指摘がありましたが、教育経営研修班においてもその必要性を強く感じていたためです。教育経営研修班の事業のひとつである初任者研修にて、その実践と対話的活動による思考の深まりについての見取りを行いました（詳しくは報告書をご参照ください）。「その前に主事の皆さんは体験しているの？」という問いが当然生まれます。実践を行うにあたり、主事も「対話的活動による思考の深まり」の理論を学び、対話的活動を体験しました。その体験のひとつはジャクソンらによる「子どもの哲学（以下ｐ４ｃ）」です。その時のワークショップが主事にも好評で、今年度も７月 10 日にｐ４ｃ体験を行いました。主事からは「お題に対するそれぞれの解釈も違うし、イメージされることや視点の違いがおもしろい」といった感想がありました。

「考えてごらん」の声かけは、学校生活の様々な場面で用いられますが、我々教師は児童・生徒に「考え方」を十分教えられているでしょうか。そのような機会がどれだけつくられているでしょうか。児童・生徒が自らの進路を「主体的に」決めることができないという話もよく聞かれます。自分の将来ほど大切なことはないのに「考える」という行為を後回しにしてしまったことが、中途退学や早期離職といった本県の課題につながってはいないでしょうか。受講した初任者のなかには、対話的活動の「良さ」を実感し、クラスの進路指導に活用したという事例もありました。今年度も同様の講義を初任者研修にて行いましたが、嬉しいことに多くの先生方が対話的活動への興味と実践意欲が高まったという感想がみられ、大変頼もしく感じました。教育経営研修班では、これからも先生方の実践意欲につながる研修を創造・継続していきます。

ワークショップの様子

小中学校の理科・技術家庭科の実践力や指導力をサポート！
～自主講座でオンライン配信スタート～

理科研修班では、小学校の理科専科を担当することになった先生方を対象に実践的指導力向上を目的とした自主講座を開講しています。今年度から遠方・離島の方にも情報提供できるように、オンデマンド配信を行うことにし、これまで３つの回で配信を行っています。

第１回目は小学校理科生命分野「観察実験の進め方・メダカの飼育（小３～６）」を４月 14 日に実施しました。観察実験の基本的な心得や、花壇の土づくりの基礎、顕微鏡のメンテナンス等の講義を行い、メダカの観察の仕方について実際にメダカを観察箱にいれて雄と雌の違いなどを観察しました。第２回目は小学校理科エネルギー分野「風やゴムで動かそう（小３）」で、身近な道具を使って実験器具を作成しました。市販の教材もあり、購入して観察・実験する学校が多いですが、手作りの場合はそれぞれの結果に差がでたところから、試行錯誤の余地が生まれ、手作りならではの良さを感じることができました。第３回は小学校理科粒子分野「ものの溶け方（小５）」です。《ものが溶けるとはどういうことか？》を実習を交えながら行いました。

新規実施したオンライン・オンデマンド配信には、参加者がそれぞれ第１回５人、第２回 24 人、第３回 32 人と会を増すごとに希望者が増え、遠方や離島の先生方からも好評です。今後も先生方の実践力向上のためにオンデマンド配信を継続していく予定です。

メダカと他の種の比較

ものの溶け方の実験

親子星空教室
～天体ドームの大型望遠鏡で月と金星を観察～

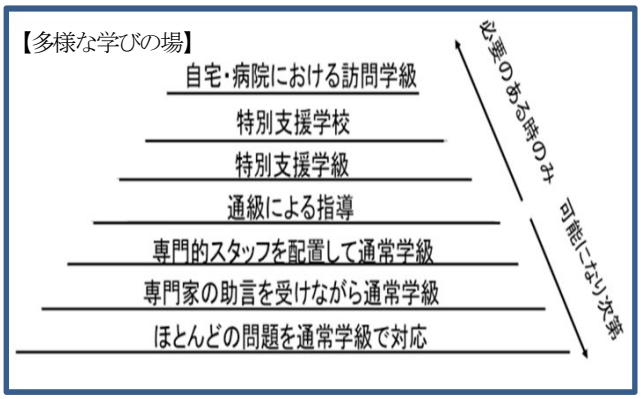
「すごい！クレーターまで見えるよ！」「ちっちゃいな。でも、これって金星？月じゃないの？」これは、令和５年６月 30 日（金）、７月１日（土）の２日間に開催された「親子星空教室①②」の参加者の声の一部です。二日間で合計 29 組の親子が、「暗闇で光るキーホルダー」作りとプラネタリウム見学から始まり、屋上に設置した４台の小型望遠鏡をじかに操作しながら月と金星を観測しました。さらに、ＩＣＴを活用し星座アプリと実際の星空を見比べながら星座観測も行いました。そして、本企画の目玉である天体ドームの大型望遠鏡を用いた観測では、はっきりと見える月面のクレーターや三日月のように欠けた金星を月と勘違いしながらも想定外の形に驚く声で大賑わいでした。

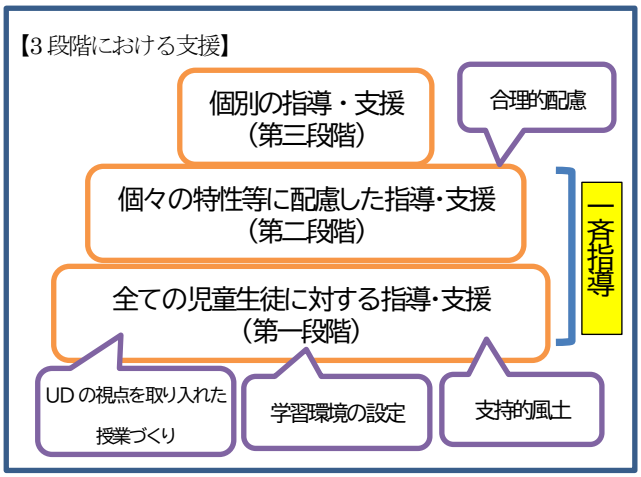
天体ドームと月

大型望遠鏡

さて、本総合教育センターでは平成 31 年度の天体ドーム改修直後、新型コロナウイルスに悩まされながらも、「子供たちの学び・体験を止めない」の思いで、感染対策を徹底しながら縮小開催で親子星空教室を継続してきました。しかし、令和２年度は開催回数と参加人数を減らしての開催。令和３年度の夏は感染拡大のため泣く泣く中止、冬は雨のため星は見えず。令和４年度の夏は台風に翻弄され、冬はまたしてもあいにくの雨。今年度の夏は、１日目に月と金星、２日目は曇りでしたが月を観測することができ、２日間無事に開催できたのは２年半ぶりのことでした。今年度の冬は、11 月 24 日（金）、25 日（土）に開催予定です。冬は木星と土星が観測できる絶好のタイミングです。多くの感動を子供たちに届けられるよう、両日ともに天候に恵まれることを心より願っています。

多様な学びの場と支援について考える





平成 24 年 7 月、特別支援教育の在り方に関する特別委員会において、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が示されました。障害のある子供と障害のない子供が同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要となり、小・中学校における通常学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場（右図上）を用意しておくことが必要とされました。

令和 4 年 12 月「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」（文部科学省）では、小中学校の通常学級において学習面又は行動面で著しい困難を示す子供の割合が 8.8%であることが報告されました。通常学級で困難を示す子供達への支援として、私達はどのような支援を考えるとよいでしょうか。本総合教育センター特別支援教育班への教育相談においても支援方法についての相談は多く寄せられています。支援を考える際、困っている生徒がいるからと安易に個別の指導・支援ではなく、右図下に示す 3 段階における指導・支援を考えていくことが大切になります。初めの 1 段階は「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや学習環境の設定、お互いを認め合う支持的風土」を土台としすべての児童生徒に対する指導・支援を行います。それでも支援が必要であれば 2 段階の「個の特性に応じた合理的配慮」が求められます。1 段階・2 段階は一斉指導の中で行われる支援であり、通常の学級で学ぶ子ども一人一人が授業の内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごせるよう工夫していきます。さらに、より丁寧な支援が必要な場合には 3 段階の「通級による指導や特別支援学級」を含めた個別の指導・支援を検討する流れになります。

子供の支援を考えるにあたり、担任が一人で悩むのではなく学校長のリーダーシップの下、学校全体（校内支援委員会等）で子供について共通理解を図り、子供の発達の程度や適応状況、交流及び共同学習の実施状況等を踏まえて学びの場の柔軟な見直しや保護者への丁寧な説明を行うことが必須になります。その際、私達が一番忘れてはいけないことは本人の気持ちもしっかり確認することです。子供が笑顔で明日も学校へ行きたい！学びたい！と思えるように、特別支援教育班でも教育相談や出前研修等で障害特性や支援方法等を現場で頑張っている先生方と一緒に考え、そして、これからも特別支援教育に関する情報を発信してまいります。

特別支援教育講演会「今、これからの特別支援教育に向けて」

令和 5 年 2 月 22 日、本教育センター多目的棟において「特別支援教育講演会」が行われました。講演会は「特別支援教育に関わる教職員の資質向上を図る、特別な支援を要する幼児児童生徒の支援のあり方について理解を深める」を目的としており、講師に香川大学教育学部付属坂出小学校校長の坂井聡先生をお迎えし講演をしていただきました。特別な支援を必要としている子供たちのコミュニケーション指導において様々な実践経験のある坂井先生から障害はその人の中ではなく環境や人が障害になること、個々の特性をなくすのではなくその人自身の個性として認めていくことの大切さをご自身の豊富な経験や特別支援教育の視点を交えた具体的で分かりやすく非常に興味深い内容の講義でした。また、通級対象生徒が教室になかなか入れないがどうしたらよいかという質問に対して、「生徒がやってみたいと思えるような魅力ある授業づくりを教師は意識することが肝心」など現場の悩みに対しても丁寧に答えていただきました。

ほかにも教職員が身に付けたい 3K の力として「共感」「肯定」「寛容」があげられ、参加者からも「3K の視点を忘れずに子供と関わっていきたい」などの感想も寄せられました。これからの特別支援教育に携わる多くの先生方にとって学びが多く充実した研修になりました。

コミュニケーションロボット「Palro」活用授業
－福祉系学科における介護ロボット活用授業プログラムの構築－

マルチメディア・ネットワーク研究室では、令和５年１月から、介護ロボットの１つであるコミュニケーションロボット「Palro」を導入しました。介護現場で活躍しているＡＩを活用したロボットの体験的・実践的な学習を行うことで、福祉系を学ぶ生徒たちの介護ロボット分野の学習の充実を目指しています。コミュニケーションロボット「Palro」の実習では、「Palro」との基本的な会話や命令プログラムの作成など操作や活用を通して知識・技術の習得を図り、Society5.0の新たな社会に貢献できる技術者の育成を支援します。本研究では、専門高校の福祉系学科はじめ、高等支援学校も受け入れており、実習体験を通して介護ロボット分野を「どのように学び」「何ができるようになったか」を考え、将来の進路選択につなげることができるよう実習プログラムを準備しています。また、実際に介護ロボット「Palro」を導入している介護施設への見学実習を取り入れた実習計画の作成などの支援にも取り組んでおり、学校の学びと社会とを繋げる授業プログラムの構築を目指しています。多くの専門高校等の生徒実習や教職員研修での活用を期待しています。

生徒実習の様子

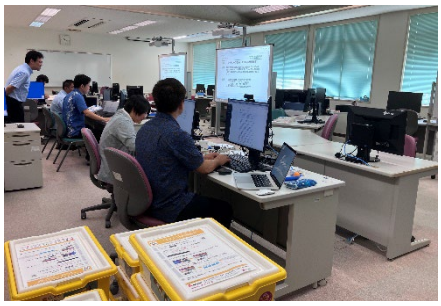
「Palro」へプログラム入力作業

「ビジネスシステム研究室機器更新、レイアウト完了」

ビジネスシステム研究室の生徒実習は、商業科目を履修する生徒を中心に年間1,000名以上を受け入れています。今年度の夏に４年ぶりに実習教室の機器更新が行われました。整備した機器は、コンピュータ、プロジェクタ、レゴエデュケーションＳＰＩＫＥ、iPad、Air レジに加えて、コンピュータソフト関連では、Microsoft office、Adobe Creative Cloud、そして、コンビニシミュレーションソフト「コンビニ経営」となっています。この機器とソフトウェアを活用して商業の学習分野である「ビジネス情報」「マーケティング」「簿記会計」「マネジメント」のそれぞれに対応するプログラム実習を作成し直しました。このプログラムを通して、それぞれ商業の見方・考え方を学び、実践的・体験的に学習することで時代の変化に対応する諸能力の伸長を目指しています。そのため、教室内の座席レイアウトを対話的な学習ができるように変更し、お互いの意見を交換しアイディアを創造する深い学びとなるように工夫しました。

また、高等学校に限らず小中学生を対象にした実習も行っており、実習を通して第三次産業の小売業や卸売業で働くことをイメージさせ、体験学習と職業を結び付けることで職業や働くことに関する学びの充実を図ります。

社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる資質能力を身に付けていくことができるようキャリア教育を支援すると同時に学校の多様なニーズに応えていけるように取り組んでいきます。



新レイアウトでグループ学習にも対応

レゴ SPIKE プログラミング実習

先生方の働き方改革支援の充実
～県立中学校版校務支援システム稼働中！～

４月から県立４中学校にて運用がスタートしました。

この県立中学校版校務支援システムは、進路相談支援システム(県立高校校務支援システム)を基に構築されており、教務系機能（成績処理、出欠管理、時数管理等)、保健系機能（健康診断票、保健室来室管理等)、学籍系機能（指導要録等）など統合した機能を有しています。また、学校運営や生徒の活躍等の情報を共有する教師間連携システムも実装しています。

今年度は、運用初年度のため、学校のニーズに応じた操作性の向上や運用上の課題解決に向けて、学校、本総合教育センター、保守管理業者間で連携を密にし、完成度を高めているところです。

［中学校版校務支援システム機能名称と主な機能］

機能名称	主な機能	機能名称	主な機能
①出席簿管理	出席状況入力･帳票出力	⑧週案管理	週案の作成及び出力
②成績入力	成績入力及び席次管理	⑨マスターデータ管理	システム操作詳細設定
③学習個票印刷	成績個票等帳票出力	⑩システム管理	システム管理詳細設定
④通知表	通知表作成及び帳票出力	⑪保健情報管理	健康診断情報入力及び帳票出力
⑤指導要録	指導要録作成及び帳票出力	⑫教師間連携システム	職員情報共有システム
⑥高校入試・進路相談	調査書等作成及び出力	⑬図書情報管理システム	図書貸出・図書管理用システム
⑦名簿	名簿、卒業台帳等出力	⑪⑫機能は高等学校システムと連動しています	

※サーバは校内設置(オンプレミス)としています。

アカウント管理ツールの導入による校務の効率化
～臨任用、児童生徒用アカウントの校内一括管理による業務改善～

一人一台端末のＧＩＧＡスクール構想が始まり、Microsoft365 や Google WorkSpace for Education 等のツールは学習プラットフォームとして授業でのＩＣＴ活用に欠かせないものとなっています。これらのサービスを活用する上で基盤となるものが教職員と生徒に配付されている OPEN アカウントになります。OPEN アカウントを活用することで、Teams 等の教育用アプリケーションをスムーズに利用することができ、メール利用の際は名前から連絡先（アドレス）を容易に検索することができます。

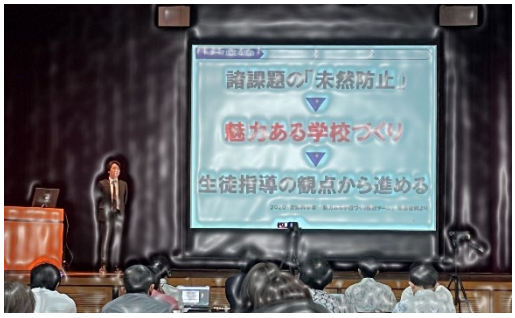
ＩＴ教育班では毎年、新年度用に県立学校の新入生用と臨任職員用アカウントと市町村立小中学校の臨任職員用アカウントを発行しています。前年度までは、各学校の担当者がアカウント受領後に提出する「表示名変更申請フォーム」を基に、ＩＴ教育班側でアカウントを使用する方の氏名登録を行っておりました。新年度準備の時期は県立・市町村立の全学校からのアカウント表示名の変更依頼が殺到するため作業完了までに約一ヶ月ほどを要し、４月からの授業におけるＩＣＴ活用をはじめ、校務等においての運用に支障を来しておりました。

この課題への解決策として、今年度よりアカウント管理ツール「School Shuttle」を各県立学校に導入することにより、ＩＴ教育班へ申請していた表示名変更が学校側で可能となりました。これによって新年度の始まる４月当初からアカウントを活用した授業や校務の運営が可能となり、学校運営において円滑なスタートが切れるものと期待しています。また、生徒個人に関わる情報（学年、組、出席番号等）も追加登録できるようになり、更に活用の幅が広がるものと考えております。

スクールシャトルの導入は、教育ＤＸの流れに乗るものであり、校務の効率化を推進することで教職員の負担軽減、ひいては児童生徒の学びの充実に繋がるものと考えます。

令和５年度 前期・離島長期研修研究報告会

令和５年度前期・離島長期研修研究報告会が９月６日(水)、７日(木)の日程で、本総合教育センターで開催されました。長期研修員16名が各自のテーマに基づき、教育課題解決に向けて熱意のある報告を行いました。この報告会から、これまでの６か月間の研修が実りある研究だったことが伝わってきました。後期からは、学校現場に戻りますが、長期研修を通して、学んだ知識・技術を教育現場で還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。



「　長期研修を通して　」

教科研修班　県立那覇西高等学校　教諭　仲程順一

長期研修では、これまでの実践を振り返り、授業づくりについて新たな知見を得る貴重な時間を過ごすことができました。参考文献や異なる校種の先生方の実践から知り得たことを、これからの指導に生かしたいと思います。検証授業計画、報告書作成や検討会では、教科研修班長、主事の方々より指導助言を頂き、感謝申し上げます。これから現場に戻り、社会から求められる力を生徒が身に付けられるよう、研修を通して得た経験等を指導に生かし、さらに工夫・改善に努めたいと思います。

「嬉しい！楽しい！大好きセンター研修！」

理科研修班　西原町立西原中学校　教諭　東江倫子

もうセンターでの研修が終わってしまうことが寂しくてなりません。４月初め、右も左もわからずに借りてきた猫のようだった頃が懐かしく思えます。様々な講話や研修を通して、教師としても人間としても成長できた喜びを感じるとともに、改めて教師としての働き方や使命について深く考える機会でもありました。班長はじめ、主事の方々には多くのご指導の中で、常に研修員に寄り添い、愛情いっぱいに激励して下さったことに感謝致します。最後に、校種や教科の枠を超えて共に切磋琢磨できた研修員へ、皆さんとの出会いは一生の宝物であり、私の「生きる力」です！ありがとう！

「　充実した学びの期間　」

特別支教育班　与那原町立与那原東小学校　教諭　宮城美奈子

４月からの半年間、教育センターにおいて貴重な時間を過ごすことができたことに感謝します。教職経験からすると遅い研修への参加でしたが､思い切って希望してよかったとしみじみ感じています。数年前から特別支援学級を受け持つようになり、通常学級とは異なる教育課程や授業づくり等に戸惑いながらの日々を過ごしていました。センターでは、充実した研修、また主事の先生方や研修員同士の他愛のない会話からもたくさんの知識や情報を得ることができました。今後の教育活動で生かしていくのが楽しみです。研修で得た多くの学びを現場へ還元できるよう努めていきたいと思います。